

平成24年度事業評価シート

事業名	94200	文化会館運営費	担当課	市民活動部 生涯学習課		内線 2350
	枝番					
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	2 あらたな文化の創造と振興を図る	
	目	2 文化会館費		施策	1 文化的環境の醸成	
根拠計画		生涯学習振興計画				
実施計画事業		文化会館管理事業				
市長公約		9 伝統文化を守り、次代へ継承します ・芸術文化の振興を積極的に支えます				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	文化会館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		指定管理者による施設の管理運営				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	開館日数	日	目標値	316	319	317
		実績値		316	319	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	利用件数	件	目標値	6,500	6,500	6,500
		実績値		6,517	6,683	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	103	-
	成果指標	利用者数	人	目標値	300,000	300,000	300,000
		実績値		299,073	287,151	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	96	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		106,621	105,139	104,575		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	120	130	100		
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		106,501	105,009	104,475		
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		357	366	349	
受益者		利用者数(B)	299,073	287,151	300,000		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・文化芸術活動等の活性化に伴い施設利用に対する市民ニーズは高まっている	
		B (1)	ある程度のニーズがある			
		C (0)	ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である	
		B (1)	一部見直しが必要である			
		C (0)	市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している	
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている	
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・適正な管理運営により、文化芸術活動等が活性化されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現に効果があった	
		B (1)	ある程度効果があった			
		C (0)	あまり効果が見られなかった			
合計		8	/ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設のより一層の利用促進を図る必要がある ・施設使用料について検討する必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・施設の老朽化、駅周辺整備などを考慮し、将来的なあり方を検討する必要がある
----------------------	---------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
-----------------	------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る ・全庁的な施設使用料の見直し方針にもとづき対応する(施設使用料の見直し等)				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成24年度事業評価シート

事業名	94210	文化会館整備事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2350
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9	教育費		分野	4	文化	
	項	4	社会教育費		基本施策	2	あらたな文化の創造と振興を図る	
	目	2	文化会館費		施策	1	文化的環境の醸成	
根拠計画	生涯学習振興計画							
実施計画事業	文化会館管理事業							
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・芸術文化の振興を積極的に支えます						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	誰もが気軽に利用しやすい快適な生涯学習環境を整備する		
概要	事業の実施手法(手段)	施設の改修整備		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	施設の改修整備(非常用放送設備・大小ホール舞台機構・エレベーター等)					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	算出根拠等	目標値					
		実績値					-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	算出根拠等	目標値					
		実績値					-
	算出根拠等		達成率(%)				-
	算出根拠等	目標値					
		実績値					-
算出根拠等		達成率(%)				-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	11,080	136,666	79,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)			27,318	11,200	
	一般財源		11,080	109,348	67,800		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	118	1,465	851	
	受益者	全市民	(B)	93,822	93,312	92,861	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・施設の利便性の向上や安全性の確保に対する市民ニーズは高まっている			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の整備である			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	・施設の整備事業であり、事業内容が多岐に渡るため、活動・成果指標の設定が困難である			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト削減等を図りながら、計画的に整備を行っている			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・施設の整備により、利便性の向上や安全性の確保が図られるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現に効果があった			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		7	/	8	→	100点換算	88	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設の利便性の向上や安全性の確保に向けて、計画的に整備を行う必要がある ・施設の将来的なあり方を検討する必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・利用者の利便性・安全性の向上や施設の長寿命化などを図るため、今後も計画的に施設・設備を整備する必要がある ・施設の老朽化、駅周辺整備などを考慮し、将来的なあり方を検討する必要がある
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・施設の利便性の向上や安全性の確保に向けた整備 ・市民ニーズ、施設の利用状況、整備の緊急性等を踏まえた整備計画の見直し ・施設の非構造部材安全点検の実施とその結果にもとづく施設安全整備計画の策定 ・施設の将来的なあり方についての検討
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・整備計画にもとづき整備を実施する ・施設安全整備計画にもとづき整備を実施する ・施設の将来的なあり方についての検討を継続する									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・非構造部材の安全対策も含め、将来負担や財源を考慮した適正な整備計画に見直す必要がある。									

平成24年度事業評価シート

事業名	94325	公民館管理費	担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	
	枝番					2350	
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	ゆたかさのあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	2	生涯学習
	項	4	社会教育費		基本施策	1	誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境づくり
	目	3	公民館費		施策	2	学習施設の整備
根拠計画		生涯学習振興計画					
実施計画事業		公民館運営事業・公民館維持修繕・改修事業					
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	公民館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		指定管理者による施設の管理運営				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	施設数	棟	目標値	13	14	14
		実績値		13	14	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	活動指標	公民館利用団体数	件	目標値	230	230	230
		実績値		231	239	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	104	-
	成果指標	公民館利用者数	人	目標値	120,000	120,000	120,000
		実績値		107,837	127,764	-	
	算出根拠等			達成率(%)	90	106	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		55,319	54,123	46,798		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	1,241	980	940		
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		54,078	53,143	45,858		
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)	513	424	390		
受益者 公民館利用者数 (B)		107,837	127,764	120,000			

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・社会教育活動等の活性化に伴い施設利用に対する市民ニーズは高まっている。 ・施設の利便性の向上や安全性の確保に対する市民ニーズは高まっている	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市有施設の管理運営である	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・活動・成果指標の目標値を十分に達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、社会教育活動等が活性化されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成に効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 施設のより一層の利用促進を図る必要がある 施設使用料について検討する必要がある 施設の利便性の向上や安全性の確保に向けて、計画的に整備を行う必要がある 地区公民館の移譲等をすすめる必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・将来的には施設の統廃合を視野に入れながら、公民館のあり方について検討する必要がある
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催 施設の新構造部材安全点検の実施とその結果にもとづく施設安全整備計画の策定 地区公民館の移譲等に向けた関係機関等との協議
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 施設のより一層の利用促進を図る 全庁的な施設使用料の見直し方針にもとづき対応する(施設使用料の見直し等) 施設安全整備計画にもとづき整備を実施する 地区公民館の移譲等についての協議が整った施設から順次移譲等を行う 									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・非構造部材の安全対策も含め、将来負担や財源を考慮した整備計画を策定する必要がある。									

平成24年度事業評価シート

事業名	94400	女性青少年会館等管理費	担当課	市民活動部 生涯学習課		内線
	枝番					2350
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 ゆたかさのあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	5 地域	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 地域に住み続けたいという思いを育てる	
	目	4 女性青少年推進費		施策	1 家庭を大切にすることづくり	
根拠計画		生涯学習振興計画				
実施計画事業		女性青少年会館管理事業				
市長公約						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・女性青少年会館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		指定管理者による施設の管理運営				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	開館日数	棟	目標値	299	295	13
				実績値	299	295	-
		算出根拠等	達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	利用件数	件	目標値	2,800	2,800	2,800
				実績値	2,665	2,855	-
		算出根拠等	達成率(%)	95	102	-	
	成果指標	利用人数	人	目標値	23,000	23,000	23,000
				実績値	22,222	23,078	-
		算出根拠等	達成率(%)	97	100	-	
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		-
				目標値			
			実績値			-	
			算出根拠等	達成率(%)		-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		15,656	15,656	15,790		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	16	15	14		
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源	15,640	15,641	15,776		
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		705	678	687	
受益者		利用人数	22,222	23,078	23,000		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・女性青少年の活動の拠点として施設利用に対する市民ニーズは高い	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・活動・成果指標の目標値を十分に達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト縮減に努めている	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、女性青少年活動が活発化されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成に効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		9 / 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設のより一層の利用促進を図る必要がある
---------------------------------------	-----------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・女性の文化と教養を高め、青少年の健全な育成に寄与できる施設となるよう努める必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
-----------------	------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成24年度事業評価シート

事業名	94405	勤労青少年ホーム運営費	担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	
	枝番						2350
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	4	「にぎわい」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	7	労働
	項	4	社会教育費		基本施策	1	誰もが能力を活かし安心して働くことのできる環境を整備する
	目	4	女性青少年推進費		施策	2	勤労者支援の充実
根拠計画		生涯学習振興計画					
実施計画事業		勤労青少年ホーム運営事業					
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	勤労青少年(15歳～35歳)	対象者数	19,122 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	勤労青少年ホームを活用した各種事業等の実施により青少年の健全育成を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		指定管理者による施設の管理運営				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	教養講座開催数	回	目標値	300	300	300
				実績値	277	296	-
	算出根拠等			達成率(%)	92	99	-
	成果指標	教養講座参加人数	人	目標値	3,800	3,800	3,800
				実績値	3,595	3,411	-
	算出根拠等			達成率(%)	95	90	-
	活動指標	クラブ数	件	目標値	15	15	15
				実績値	15	15	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	クラブ活動件数	件	目標値	500	500	500
				実績値	427	501	-
	算出根拠等			達成率(%)	85	100	-
	成果指標	クラブ活動人数	人	目標値	2,000	2,000	2,000
実績値				1,952	2,672	-	
算出根拠等			達成率(%)	98	134	-	
			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		4,090	4,090	4,095		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	4,090	4,090	4,095			
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		737	672	706		
	受益者	教養講座参加人数、クラブ活動人数 (B)	5,547	6,083	5,800		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・勤労青少年ホームを活用した学習や交流の機会を求める市民ニーズは高い	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト縮減に努めている	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、勤労青少年の教養の向上や活発な交流が図られるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成に効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設のより一層の利用促進を図る必要がある
---------------------------------------	-----------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・働く青少年が教養を高め、より多くの仲間との交流や友情を深められるよう利用拡大を図る必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
-----------------	------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	H24完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成24年度事業評価シート

事業名	94515	図書館管理費	担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2350
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 ゆたかさのあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	2 生涯学習	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境をつくる	
	目	5 図書館費		施策	1 学習機会の充実 2 学習施設の整備	
根拠計画	生涯学習振興計画					
実施計画事業	読書推進事業/図書館運営事業/図書館図書整備事業					
市長公約						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	図書館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	地域活性化・住民生活に光をそそぐ交付金の活用 指定管理者による施設の管理運営					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	開館日数	点	目標値	343	344	343
				実績値	343	344	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	活動指標	蔵書数	点	目標値	277,936	300,000	310,000
				実績値	276,655	301,914	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	101	-
	成果指標	図書館利用登録者数	人	目標値	47,000	49,000	51,000
				実績値	46,691	49,151	-
	算出根拠等			達成率(%)	99	100	-
	成果指標	来館者数	人	目標値	380,000	380,000	380,000
				実績値	364,603	415,771	-
	算出根拠等			達成率(%)	96	109	-
	成果指標	貸出点数	点	目標値	580,000	580,000	580,000
実績値				547,887	567,936	-	
算出根拠等			達成率(%)	94	98	-	
			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	172,860	210,204	165,780	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			172,860	210,204	165,780	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	474	506	436	
	受益者	来館者数	(B)	364,603	415,771	380,000	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・蔵書の整備や読書推進事業等図書館機能の充実を求める市民ニーズは高まっている	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、知の拠点施設としての機能の充実が図られるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成に効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・利用者のニーズに応じた資料の購入や配本、レファレンスサービスの向上など、施設のより一層の利用促進を図る必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・平成22年度事業評価において、利用者のニーズに応じた資料の購入や配本等により蔵書の充実を図るとともに、利用者へのレファレンスサービスの充実を図る必要があるとの指摘をしており、引き続きこうした取り組みを行う必要がある
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
-----------------	------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・利用者のニーズに応じた資料の購入や配本、レファレンスサービスの充実などにより施設のより一層の利用促進を図る必要がある。				

平成24年度事業評価シート

事業名	94600	文化振興事務費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	2350
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9	教育費		分野	4	文化	
	項	4	社会教育費		基本施策	2	あらたな文化の創造と振興を図る	
	目	6	文化振興費		施策	1	文化的環境の醸成	
根拠計画		生涯学習振興計画						
実施計画事業								
市長公約		9 伝統文化を守り、次代へ継承します。 文化芸術の振興を積極的に支えます						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	文化芸術の振興を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	文化振興事務		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	文化芸術振興指針の策定に向けた検討 飛騨高山文化芸術祭のあり方についての検討					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
				目標値			
				実績値	-		-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円) (A)		151	166	1,690		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		151	166	1,690		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		2	2	18		
	受益者	全市民 (B)	93,822	93,312	92,861		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・心の中や生活に潤いと豊かさを求める市民意識の変化のなか、文化芸術の振興を求める市民ニーズは高まっている			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市、関係団体、市民等が一体となって文化芸術の振興を図る必要がある			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	・文化振興に係る事務費であり、活動・成果指標の設定が困難である			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト縮減に努めている			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・各種取り組みを通じて、あらたな文化の創造と振興が図られるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		6	/	8	→	100点換算	75	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・文化芸術振興の方向性を明らかにする必要がある ・飛騨高山文化芸術祭の開催に向けた取り組みをすすめる必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・「文化芸術振興指針」を策定し、今後の文化芸術振興施策の方向性を定める必要がある ・「飛騨高山文化芸術祭」の開催に向け、実行委員会を組織するなど、着実に調整を進める必要がある
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・文化芸術振興指針の策定とそれにもとづく実施計画の策定 ・飛騨高山文化芸術祭の開催に向けた取り組み(実行委員会設立、プレイベント実施、本イベント計画等)
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・文化芸術の振興を図る ・文化芸術振興指針実施計画にもとづき事業を実施する ・飛騨高山文化芸術祭(本イベント)を開催する									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・飛騨高山文化芸術祭については、参加する市民数等の目標を定め、より多くの市民が参加できる仕組みを検討する必要がある。 ・目的や内容が重なる既存事業については、事業のあり方や実施方法等について、整理する必要がある。									

平成24年度事業評価シート

事業名	94605	美術展覧会等開催事業	担当課	市民活動部 生涯学習課		内線 2350	
	枝番						
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	2	あらたな文化の創造と振興を図る
	目	6	文化振興費		施策	1	文化的環境の醸成
根拠計画		生涯学習振興計画					
実施計画事業		美術展覧会等開催事業					
市長公約		9 伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・文化芸術の振興を積極的に支えます					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	美術展覧会等の開催を通じて、文化芸術の振興を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	公募美術展の開催 市有美術品の保存・展示		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・公募美術展の開催 ・市有美術品の保存、展示				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	市美術展覧会の応募点数	点	目標値	300	300	300
				実績値	306	298	-
	算出根拠等			達成率(%)	102	99	-
	成果指標	市美術展覧会の入場者数	人	目標値	2,000	2,000	2,000
				実績値	2,063	2,132	-
	算出根拠等			達成率(%)	103	107	-
	活動指標	飛騨高山現代木版画ビエンナーレの応募点数(一般)	点	目標値	200	-	200
				実績値	158	隔年実施	-
	算出根拠等			達成率(%)	79	-	-
	成果指標	飛騨高山現代木版画ビエンナーレの応募点数(小中学生)	点	目標値	300	-	300
				実績値	289	隔年実施	-
	算出根拠等			達成率(%)	96	-	-
	成果指標	飛騨高山現代木版画ビエンナーレの入場者数	人	目標値	1,000	-	1,000
実績値				530	隔年実施	-	
算出根拠等			達成率(%)	53	-	-	
			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	5,788	2,188	6,996	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		326	0	560	
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		5,462	2,188	6,436		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	62	23	75	
	受益者	全市民	(B)	93,822	93,212	92,861	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・文化芸術の市民生活への浸透に伴い、美術作品の発表の場や鑑賞機会の創出を求める市民ニーズは高まっている			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・美術展覧会等の開催は、文化芸術の振興において、大きな効果が期待されるため、市が事業主体となって実施する必要がある			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト縮減に努めている			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・美術展覧会等の開催を通じて、文化芸術に対する意識が醸成されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		7	/	10	→	100点換算	70	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・より多くの市民に親しまれる展覧会等となるよう、あり方等について検討する必要がある ・市有美術品の活用を図る必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・平成22年度事業評価において、市美術展覧会(毎年)、木版画ビエンナーレ(隔年)及び地域振興予算で実施する臥龍桜日本画大賞展(毎年)を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要があるとの指摘をしており、引き続きこうした取り組みを行う必要がある ・市有美術品の活用方法の検討、未額装作品の額装計画の策定を行う必要がある
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・美術展覧会あり方検討委員会で検討(実施方法、3つの美術展の関連や位置づけ等) ・市有美術品の市施設での展示拡大 ・飛騨高山現代木版画ビエンナーレの開催時期の検討(飛騨高山文化芸術祭との関連等)
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・美術展覧会等の開催を通じて、文化芸術の振興を図る ・美術展覧会あり方検討委員会で検討結果にもとづき、対応する(実施方法の見直し等) ・市有美術品の有効活用を図る				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・市美術展覧会(毎年)、木版画ビエンナーレ(隔年)及び地域振興特別予算で実施する臥龍桜日本画大賞展(毎年)を合わせた3つの公募展の関連や位置づけについて整理する必要がある。 ・事業の委託化や市民を巻き込んだ実施方法等について、引き続き検討する必要がある。				

平成24年度事業評価シート

事業名	94610	文化芸術鑑賞事業費	担当課	市民活動部 生涯学習課		内線 2350
	枝番					
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	2 あらたな文化の創造と振興を図る	
	目	6 文化振興費		施策	1 文化的環境の醸成	
根拠計画		生涯学習振興計画				
実施計画事業		文化振興自主事業				
市長公約		9 伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・文化芸術の振興を積極的に支えます				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・優れた文化芸術にふれる機会の充実を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・小学校芸術鑑賞事業の開催 ・市民文化芸術鑑賞事業の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・小学校芸術鑑賞事業の開催(拡大) ・市民文化芸術鑑賞事業の開催(実施ホールの拡大)				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	小学校芸術鑑賞事業の実施回数	回	目標値	1	2	2
				実績値	1	2	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	小学校芸術鑑賞事業の参加者数(4, 6年生)	人	目標値	950	1,905	1,897
				実績値	950	1,905	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	活動指標	市民文化芸術鑑賞事業の実施回数	回	目標値	4	10	10
				実績値	4	10	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	市民文化芸術鑑賞事業への参加者数	人	目標値	5,000	8,000	8,000
				実績値	3,052	6,369	-
	算出根拠等			達成率(%)	61	80	-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	9,454	31,447	32,050	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)				2,000	
	一般財源			9,454	29,447	32,050	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	2,362	3,801	3,238
受益者		参加者数	(B)	4,002	8,274	9,897	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・大規模で優れた舞台芸術を鑑賞する機会を求める市民ニーズは高まっている	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が事業主体として、市民が優れた文化芸術(民間では困難な分野や規模)にふれる機会を提供する必要がある	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・専門的知識がある団体へ事業委託をするなど、事業の効率化やコスト縮減等に努めている	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・文化芸術鑑賞の機会の創出を通じて、文化芸術に対する意識が醸成されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		7 / 10	→	100点換算	70 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・文化芸術鑑賞事業の趣旨に沿った事業が展開できるよう、委託方法について検討する必要がある ・文化芸術鑑賞事業と地域振興特別予算で実施している文化芸術関連事業との調整を図る必要がある ・子どもたちが文化芸術を通じて将来の夢を育むことができるような事業展開が必要である
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・H23予算において、小学生について対象学年を拡大(6年→4・6年)、市民について開催ホールを拡大(1ホール計3回→5ホール計8回)している。今後は開催実績などの検証を行い、次年度以降の事業計画を策定する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・文化芸術鑑賞事業のあり方についての検討
-----------------	----------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・優れた文化芸術にふれる機会の充実を図る ・文化芸術鑑賞事業のあり方についての検討結果にもとづき対応する(委託方法の見直し等) ・子どもたちが文化芸術を通じて将来の夢を育むことができるよう、小学校芸術鑑賞事業の内容を見直し、拡大する((仮)子ども夢創造事業)								

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・文化芸術鑑賞事業については、事業実績や参加者の声・市民ニーズなどの把握に努め、事業効果を高めるとともに、地域振興特別予算で実施している芸術鑑賞・文化講演会開催に対する助成事業との整理を含めた実施方針を定める必要がある。 ・小学校芸術鑑賞事業については、意図・成果目標を明確にするとともに、各計画における位置付けや既存事業との調整等、整理が必要である。								

平成24年度事業評価シート

事業名	94615	文化振興支援事業	担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2350
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 ゆたかさのあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	2 新たな文化の創造と振興を図る	
	目	6 文化振興費		施策	1 文化的環境の醸成	
根拠計画	生涯学習振興計画					
実施計画事業	文化振興支援事業					
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 文化芸術の振興を積極的に支えます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	各種文化団体	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民の自主的な文化芸術活動を支援する		
概要	事業の実施手法(手段)	・文化芸術活動への支援 ・飛騨高山YANSA21フェスティバルへの支援		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績	・文化芸術活動への支援(拡大) ・飛騨高山YANSA21フェスティバルへの支援					
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	文化振興事業補助団体	団体	目標値	7	12	12
		実績値	9	12	-		
	算出根拠等	達成率(%)	129	100	-		
	算出根拠等	目標値					
		実績値			-		
	算出根拠等	達成率(%)			-		
	算出根拠等	目標値					
		実績値			-		
算出根拠等	達成率(%)			-			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	5,000	4,948	7,300	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		5,000	4,948	7,300		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	555,556	412,333	608,333	
	受益者	文化振興事業補助団体	(B)	9	12	12	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市民の自主的な文化芸術活動への支援を求める市民ニーズは高まっている	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市民の自主的な文化芸術活動を促すため、市が主体となって、その活動を支援する必要がある	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・活動指標の目標値を十分に達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・支援のあり方等について検討している	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・市民の自主的な文化芸術活動への支援を通じて、その活動が活発化されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現にある程度効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・市民の文化芸術活動に対する支援のあり方等について検討する必要がある ・YANSA21フェスティバルが市民に息づいたものとなるよう、事業のあり方について検討する必要がある
--	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・H23予算において、文化振興事業支援補助金を拡大(年1→2回募集、予算倍増)しており、一層の利用拡大、市民への芸術文化活動の浸透・定着に取り組んでいく必要がある。 ・YANSA21フェスティバルについては、今後の事業のあり方等について検討する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・文化振興支援補助金の内容を飛騨高山文化芸術祭における支援方法に併せて見直し ・YANSA21フェスティバルのあり方について実行委員会を中心に検討
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・市民の自主的な文化芸術活動を支援する ・YANSA21フェスティバルのあり方についての検討結果等にもとづき対応する(あらたな方向性への対応等)				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・文化振興事業支援補助金については、飛騨高山文化芸術祭における市民提案プロジェクトとの住み分けを明確にし、今後のあり方を整理する必要がある。				

平成24年度事業評価シート

事業名	94620	文化伝承館管理事業費	担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2350
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 ゆたかさのあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	2 新たな文化の創造と振興を図る	
	目	2 文化会館費		施策	1 文化的環境の醸成	
根拠計画		生涯学習振興計画				
実施計画事業						
市長公約		9 伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・文化芸術の振興を積極的に支えます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	文化伝承館の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		指定管理者による施設の管理運営				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	開館日数	日	目標値	297	301	300
				実績値	297	301	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	利用件数	件	目標値	100	100	100
				実績値	92	75	-
	算出根拠等			達成率(%)	92	75	-
	成果指標	利用者数	人	目標値	3,500	3,500	3,500
				実績値	3,391	2,460	-
	算出根拠等			達成率(%)	97	70	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	3,650	3,650	3,650	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			3,650	3,650	3,650	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,076	1,484	1,043	
	受益者	利用者数	(B)	3,391	2,460	3,500	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・お茶会や歌会、日本舞踊など、施設に適した利用ニーズがある	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、コスト削減に努めている	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・適正な管理運営により、市民の利用が促進されるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成及び市長公約の実現に効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		8 / 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・施設のより一層の利用促進を図る必要がある ・施設使用料について検討する必要がある
---------------------------------------	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・文化伝承館の適正な管理運営により市民の利用を促進する ・施設の有効活用について検討する
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催
-----------------	------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る ・全庁的な施設使用料の見直し方針にもとづき対応する(施設使用料の見直し等)				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成24年度事業評価シート

事業名	94900	生涯学習推進事業費	担当課	市民活動部 生涯学習課		内線 2350
	枝番					
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 ゆたかさのあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	2 生涯学習	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境をつくる	
	目	9 生涯学習推進費		施策	1 学習機会の充実	
根拠計画		生涯学習振興計画				
実施計画事業		生涯学習推進事業費				
市長公約						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	生涯学習機会の提供と充実を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	生涯学習講座の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		生涯学習講座の開催				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	講座開催数	回	目標値	20	20	20
		算出根拠等		実績値	19	12	-
	成果指標	講座受講者数	人	目標値	800	800	800
		算出根拠等		実績値	1,380	818	-
	算出根拠等			達成率(%)	173	102	-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				達成率(%)			-
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)(A)		906	637	980		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源	906	637	980			
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		657	779	1,225		
	受益者	講座受講者数(B)	1,380	818	800		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・自己の知識・技術・経験を高める学習や地域づくりにつながる学習など、生涯学習機会の提供と充実を求める市民ニーズは高まっている	
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・市、民間、地域等の適正な役割分担のもと、生涯学習に対する関心の高まりや多様化する学習ニーズに対応した事業を展開していく必要がある	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト縮減に努めている	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・生涯学習講座の開催を通じて、学習意欲の高揚が図られるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成にある程度効果があった	
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		6 / 10	→	100点換算	60 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	・生涯学習機会の提供と充実を求める市民ニーズに対応した生涯学習講座の構築について検討する必要がある ・子どもたちが科学やものづくりを通じて将来の夢を育むことができるような事業展開が必要である
--	--

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	・地域ぐるみで子どもを育み、誰もが生きがいを持って生涯学び続け、地域へ学びを還元していくことのできる「知の循環型社会」の構築が求められており、家庭教育・青少年育成・成人の各ライフステージに応じた学習機会の提供・充実を行う必要がある
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地域づくり型生涯学習のあり方についての検討
-----------------	------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	○	拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・生涯学習機会の提供と充実を図る ・地域づくり型生涯学習のあり方についての検討結果等にもとづき対応する(生涯学習講座の再構築等) ・子どもたちが科学やものづくりを通じて将来の夢を育むことができるよう、子ども移動科学館事業等の内容を見直し、拡大する((仮)子ども夢創造事業)								

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	・講座数、参加人数が減少していることから、市民ニーズを確認するとともに、事業のあり方について、検討する必要がある。 ・子ども移動科学館事業等については、意図・成果目標を明確にするとともに、各計画における位置付けや既存事業との調整等、整理が必要である。									

平成24年度事業評価シート

事業名	94910	放送大学高山学習センター運営費	担当課	市民活動部 生涯学習課	内線	2350
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 ゆたかさのあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	2 生涯学習	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境をつくる	
	目	6 文化振興費		施策	1 学習機会の充実	
根拠計画	生涯学習振興計画					
実施計画事業	放送大学高山学習センター運営事業					
市長公約						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	15歳以上の市民	対象者数	79,858 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・放送大学岐阜学習センター高山分室を適正に管理運営する		
概要	事業の実施手法(手段)	・管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		・管理運営				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	学生数	人	目標値	80	80	80
		算出根拠等		実績値	72	71	-
	成果指標	新規入学者数	人	目標値	10	10	10
		算出根拠等		実績値	14	23	-
	活動指標	放送大学セミナーの開催	回	目標値	3	3	3
		算出根拠等		実績値	3	3	-
	成果指標	放送大学セミナーの参加者数	人	目標値	60	60	60
		算出根拠等		実績値	60	57	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)	100	95	-
	補足事項						
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額	
歳出(千円)(A)		664	663	700			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源		664	663	700			
コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		9,222	9,471	9,859		
	受益者	学生数	72	70	71		

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・自分のライフスタイルに合わせて学びたいことを学ぶことができる放送大学に対する市民ニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市民の受講の便宜を図るため、放送大学岐阜学習センターの高山分室として設置されたものである
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・コスト縮減に努めている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・放送大学岐阜学習センター高山分室の設置を通じて、学習機会の拡充が図られるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成に効果があった
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・受講しやすい環境づくりと利用拡大に向けた広報活動の充実を図る必要がある
---------------------------------------	--------------------------------------

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	放送大学岐阜学習センター高山分室を適正に管理運営する
----------------------	----------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・セミナーの開催 ・市民への周知啓発
-----------------	-----------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	・施設のより一層の利用促進を図る				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	H24完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成24年度事業評価シート

事業名		94935	生涯学習施設等管理事業費		担当課	市民活動部 生涯学習課		内線	
		枝番					2350		
予算	会計	1	一般会計		総合計画	政策	5	ゆたかさのあるまちをめざして	
	款	9	教育費			分野	2	生涯学習	
	項	4	社会教育費			基本施策	1	誰もが生涯を通じて自ら学ぶことのできる環境づくり	
	目	9	生涯学習推進費			施策	2	学習施設の整備	
根拠計画		生涯学習振興計画							
実施計画事業		生涯学習施設等管理事業							
市長公約									

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	92,861 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	生涯学習施設の適正な管理運営により市民の利用を促進する		
概要	事業の実施手法(手段)	指定管理者による施設の管理運営		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H23の実績		指定管理者による施設の管理運営				
	指標名		単位	目標・実績	H22	H23	H24
	活動指標	開催日(飛騨プラネタリウム)	日	目標値	283	300	300
		実績値	283	300	-		
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	利用人数(飛騨プラネタリウム)	人	目標値	4,500	4,500	4,500
		実績値	6,164	6,753	-		
	算出根拠等			達成率(%)	137	150	-
	活動指標	開催日(奥飛騨栃尾生涯学習館)	日	目標値	334	335	335
		実績値	322	323	-		
	算出根拠等			達成率(%)	96	96	-
	成果指標	利用人数(奥飛騨栃尾生涯学習館)	人	目標値	1,500	1,500	1,500
		実績値	1,580	1,363	-		
	算出根拠等			達成率(%)	105	91	-
				目標値			
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H22 決算額	H23 決算額	H24 予算額		
	歳出(千円)		(A)	8,738	8,738	28,113	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		194	3	650	
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		8,544	8,735	27,463		
	コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,128	1,077	4,686
受益者		利用人数	(B)	7,744	8,116	6,000	

3 分析・評価(Check) ※平成23年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・生涯学習に対する意識の高まりに伴い施設利用に対する市民ニーズは高まっている ・施設の利便性の向上や安全性の確保に対する市民ニーズは高まっている			
		B (1)	ある程度のニーズがある					
		C (0)	ニーズが低い					
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市有施設の管理運営である			
		B (1)	一部見直しが必要である					
		C (0)	市が実施する必要性が低い					
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	・活動・成果指標の目標値を概ね達成している			
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている					
		C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である					
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を導入し、利用サービスの向上、コスト縮減に努めている			
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている					
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である					
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・適正な管理運営により、生涯学習に対する意識が高まるなど、総合計画や生涯学習振興計画の目標達成に効果があった			
		B (1)	ある程度効果があった					
		C (0)	あまり効果が見られなかった					
合計		8	/	10	→	100点換算	80	点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	<ul style="list-style-type: none"> 施設のより一層の利用促進を図る必要がある 施設使用料について検討する必要がある 国府文化ホール指定管理者制度導入をすすめる必要がある 施設の利便性の向上や安全性の確保に向けて、計画的に整備を行う必要がある
---------------------------------------	---

(参考) H23事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> サービス向上・コスト削減等を一層進めていくとともに、利用促進を図る必要がある。 生涯学習施設の今後のあり方については、市全体での調整・検討が必要である。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者や施設利用者との意見交換会の開催 国府文化ホール指定管理者制度導入の検討 施設非構造部材安全点検の実施とその結果にもとづく施設安全整備計画の策定
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 施設のより一層の利用促進を図る 全庁的な施設使用料の見直し方針にもとづき対応する(施設使用料の見直し、国府文化ホール指定管理者制度導入等) 施設安全整備計画にもとづき整備を実施する 									

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○	維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討		H24完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化、利用頻度等を考慮し、施設の統廃合も視野に入れ、将来的な施設のあり方について、検討する必要がある。 									